

探討有關敬語動詞「頂戴」的若干用法

蔡瓊芳^{*}

摘要

本論目的在文探討敬語動詞「頂戴」的若干用法，經過考察其使用場面、文脈意思分類、及可否轉換成其相關授受動詞等用法後，得知以下結論。

1. 使用場面：「頂戴」的三大句型，大多用於私人場面。
2. 「頂戴」的三大句型皆屬敬語，「頂戴する」是謙讓語也有當丁寧語使用，而「～を頂戴・～て頂戴」是親愛語也有當美化語使用之性質。
3. 「頂戴・～て頂戴」本身並無「催促・命令」語氣、但若場面・語調等有此設定時不在此限。
4. 「頂戴する」男女皆可使用。「～を頂戴・～て頂戴」則是女性、小孩常用，但限用於親近的人或家人。
5. 「頂戴する」的敬語使用對象為其動作所指向之人，而「～を頂戴・～て頂戴」則為聽者。

關鍵詞：言語待遇表現、謙讓語、丁寧語、美化語、親愛語

^{*} 國立政治大學日本語文學系・副教授

敬語動詞「ちょうだい」をめぐって

蔡瓊芳*

要旨

本論文は、敬語動詞「頂戴」を三つの語形で「使用場面・意味分類・置き換え」から考察した結果、下記のことになったのである。

1. 使用場面は、「頂戴」の三つの語形ともプライベートな場のみに使われる。
2. 「頂戴する」は、「謙譲語」であるが、「丁寧語」として使われることもある。「～を頂戴・～て頂戴」は、「親愛語」であるが、「美化語」として使われることもある。従って「親愛語」も広義の敬語である。
3. 「頂戴・て頂戴」は、場面性やアクセント・抑揚の要素を考慮に入れないと、「催促・命令」の意が初めから含まれない。
4. 「頂戴する」は、男女とも用いられるが、「～を頂戴・～て頂戴」は、女性・子供によく使われるが、男性が使う例も見られる。
5. 敬意顧慮の対象は、「頂戴する」は、行為の向かう相手であるが、「～を頂戴・～て頂戴」は、聞き手である。

キーワード：待遇表現、謙譲語、丁寧語、美化語、親愛語、

* 国立政治大学日本語文学科副教授

Japanese honorific verb through "Chodai"

Chiung-fung Tsai*

Abstract

The objective of this theme is to examine an honorific verb "Chodai" by classifying three ways such as "where to use, the meaning group and the replacing". The following list is a result of research.

1. "Chodai" can be used with above three ways only in a private scene.
2. "Chodai- suru" is an humble form, but it can be used as "a polite form", too. While "~wo chodai" or "~ te chodai" are 'an expression of endearment'. but can be used as 'a glorified form', too. Hence 'the expression of endearment' is also an honorific in the wide sense.
3. "Chodai" and "~te chodai" are unable to imply the meaning of 'beg, urge or imperative' unless taking account of the context and an accent or the intonation.
4. 'Chodai suru' can be used by men and women, while "~wo chodai" and "~te chodai" are usually used by women and children, which is rarely used by men.
5. "Chodai suru" is for a person to be taken action, but " ~wo chodai" or "~ te chodai " is for a person listening to.

Keyword : Social Dexis (Politeness strategies), humble form,
polite form , glorified form, expression of endearment.

* Associate Professor of Department of Japanese, National Cheng-Chi University

敬語動詞「ちょうだい」をめぐって

蔡瓊芳

1 問題提起と考察範囲

「頂戴」を平仮名で「ちょうだい」と、書くことも多い。“どうして「お茶、頂戴」のように、述部に「頂戴」、名詞ひとつだけでセンテンスがなり立つのか、学生たちによく質問される。また「頂戴」とは敬語なのか、催促や命令の意があるのか”、そして、待遇表現から見た「頂戴」の位置付けが、どうなるか、考察したい。しかし、「お目玉を頂戴する」や「お叱りを頂戴する」などの慣用句的な用法は本論文から省く。収集例をそれぞれ使用場面、文脈からの意味分類、意味分類への置き換えから考察する。考察の対象は次のものである。

- 【1】本動詞の「頂戴する」。(結構な品を頂戴しました。)
- 【2】動詞的な漢語名詞の「～を頂戴」。(お茶を頂戴。)
- 【3】補助動詞の「～て頂戴」。(手伝って頂戴。)

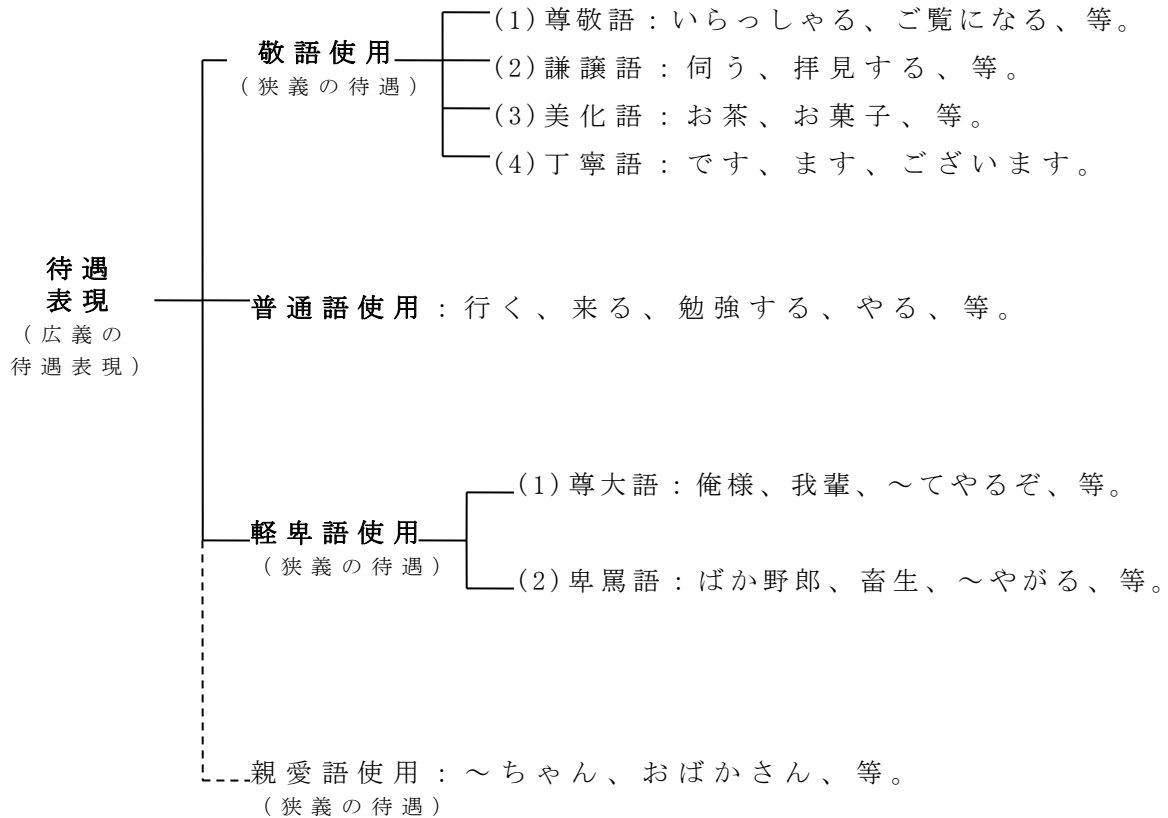
2「頂戴」とは

「頂戴」とは何か、敬語なのか、疑問を抱く人もいるのであろう。結論を出すまえにまず日本語の待遇表現について、考えてみたい。

2.1 待遇表現の構造

日本語の待遇表現の構造を次のように見ることができる。¹

¹ 蔡 (1996 : p19) によるもの。



今までの待遇表現の研究は殆どが狭義の待遇表現であったが、広義の待遇表現に含まれる卑罵語及び親愛語といったものはあまり取り上げられていないようである。なぜか、疑問を抱く人もいるにちがいない。“敬語は人と人との相互尊重の気持ちを基盤とすべきものである”²。この基盤は社会の本来の根本的な性質であるし、社会通念からみれば卑罵語などは望ましくない言語の待遇表現なのだと思われるかも知れない。なお、日本語の待遇表現の構造の中で、狭義の待遇表現をプラス敬語と、卑罵語をマイナス敬語とも言われている。狭義の待遇表現の分類は宮地裕（1968）の5分類に従い、定義を次のようにしておく。³

- ・ **尊敬語**：話題の人の行為・所有などについて、話し手がその人への配慮を表す敬語。

² 『日本語の指針』（2007：p 6）による。

³ 宮地（1968：p 98）による。

- ・ **謙讓語**：話題の下位者の上位者に対する行為の表現を通して、話し手がその上位者への配慮を表す敬語。
- ・ **美化語**：話題の物事の表現を通して、話し手が自分の言葉遣いの品位への配慮を表す敬語。
- ・ **丁重語**：話題の物事の表現を通して、話し手が聞き手への配慮を示す敬語。（致す、参る、申す、存じる）
- ・ **丁寧語**：話し手が専ら聞き手への配慮を示す敬語。

2.2 先行研究

待遇表現の分類は周知のように数多く研究されているから、一々挙げないことにする。「頂戴」だけをテーマにする先行研究は残念ながら、私が調査した限りにおいては、あまり出されていないようである。ここであえて「頂戴する」に触れた学者の松下（1923）、大石初太郎（1976）、奥山（1976）だけを代表的に紹介する。なお、学者により、名称が異なることもあると改めて断っておく。

松下（1923：p33-34）は「頂戴」を**客体敬称**という。

客体敬称は動詞に属する敬語で、動作の客体を敬うものである。中略。「頂戴」、拝見、拝借は、無活用動詞である。下へ「する」「なさる」「致す」「あそばす」「申す」をつけて使う。

大石初太郎（1976：p 132-133）は謙讓語を A（伺う、お耳に入れるなど）、B（小生、弊社、致すなど）に分ける。「頂戴する」を謙讓語 A に分類し、その働きは“話題主を低め、その行為の向かう相手方を高める表現のために用いられる敬語。”と定義する。

奥山（1976：41）は「ちょうだいする」について、次のように述べる。物を頭上に戴く動作から「もらう」意味になった謙讓語で、「いただく」と同じ。また物をくれたり動作をしたりすることを促すことばとして

「頂戴」「～て頂戴」があるが、これは敬語とはいえない。

松下（同書）は「頂戴」を客体敬称という。客体敬称は動詞に属する敬語で、動作の客体を敬うものである。しかし奥山（同書）は「頂戴」「～て頂戴」を敬語だということを認めない。注目したい一説である。これについては「4 待遇表現から見た「頂戴」などの位置づけ」で、また後述する。一言を触れておきたいのは、松下（同書）は「頂戴」を下へ「する」を附けて使うというのは、謙譲語として使われる「頂戴する」のことである。

2.3 辞書による概説

まず「頂戴」とは何か、辞書によると、次のような概説がある。辞書が参考文献にあげてある。

- ①敬意を表して、いただき物などを目より高くささげ、頭をさげること。頭上に物をいただきささげること。「賞状を頂戴して、ひきさがる」
- ②もらうことの謙譲語。賜ること。いただくこと。また、もらって飲食することをへりくだって言う語。
「結構な品を頂戴いたしました。」「もう十分頂戴しました。」
- ③多く女性・子供の用いる語である。物を与えてくれ、また、売ってくれという命令の意を親しみの気持ちをこめて促すようにいう語。ください。「イワシを三匹頂戴」、「これ、一つちょうだいな。」、「牛肉 500 グラム頂戴」
- ④文末につけて、物をもらうことを求める語。「…て頂戴」の形で補助動詞の命令形のように用いて相手に何かをしてもらうのを促す気持ちを親しみをこめて言う語。「その新聞を取って頂戴」「この本を見せて頂戴」「ここに坐らないで頂戴」〔女性語や幼児語として用いられることが多い〕

なお、上記の概説を纏めると、次のようなことが言えよう。
 ①、②は本動詞の「～を頂戴する」の用法にあたり、「もらう」を鄭重に言う場合で謙讓語的な表現だということで納得する。
 ③④は動詞的な漢語名詞の「～を頂戴」と、補助動詞としての「～て頂戴」の用法にあたる。しかし「～を頂戴」、「～て頂戴」には「命令の意」や「促す気持ち」というニュアンスがあるという説明が非常に気になる。これを考えてみたい。

2.4「命令の意」や「促す」について

「ちょうだい」にはそもそも初めから「促す」や「命令」という意を含まないというのが、私の語感であるが、「2-3」の辞書の概説によると、**命令の意を親しみの気持ちをこめて促すようにいう語**”という説明がされている。この点が私の気になるところである。**果たして命令の意や促す気持ち**というニュアンスがあるのか、考えてみよう。その前に『明鏡国語辞典』の説明を紹介しておきたい。私見とほぼ同じ考えなのである。

『明鏡国語辞典』（2002）によれば次のように説明してある。

- ・《文末で動詞の命令形のように使って》相手に要求・依頼する意を親しみの気持ちをこめていう語。ください。「おやつをちょうだい」、「この大根ちょうだい」
- ・《「…て頂戴」の形で、補助動詞の命令形のように使って》相手に要望・懇願する意を親しみをこめていう語。…ください。「ちょっと待って頂戴」「これ買って頂戴」。

次の例をみてみよう。

- ①「この大根をください」、②「この大根を頂戴」

①、②の例からも分かるように「指示・要求・懇願する」という意が取れる。「ください」を「頂戴」に変えても、私には催促というニュアンスを感じない。しかし、これらの文に「早く・ゆっくり」などの副詞をつけると、

- ①「早く（イワシ・この大根を）ください。」

② 「早く（イワシ・この大根を）ちょうだい。」

③ 「急がないから、ゆっくりしてちょうだい。」

のように、「命令の意」や「催促する」というニュアンスがはっきり出てくる。つまり「頂戴」という語には最初から命令や催促などという意味が含まれているわけではない。よって何らかの「文脈」が伴わないと、そのような意にはならないと思われる。また次の収集例 (24) (16)をみてよう。

(24)「お母さんだよ、開けてちょうだい。まだ寝てるの。急ぎの用事があるから、早く開けて」(人生、p 83)

(16)おやつの時間です。りょう「今日のレモンキャンディーはおいしかった」みんなが「ちょうだい、ちょうだい」って言って(中略)。(うちの子、p 73)

(24)文中の「開けてちょうだい」は、親愛語の用法であり、むしろ「早く開けて」の方は催促の意が取れる。(16)は「頂戴、頂戴」と重ねて使うと、(お菓子を)催促というニュアンスが取れる。次の例⁴も同じことが言える。

④「ねえ、頂戴よう、頂戴よう」ホールの喫茶室の隅で、清子が50年配の男に身を摺り寄せているのを、私は見たことがあった。(井上靖「春の嵐」)

⑤「わたし、もうこのうち、嫌よ。一日も早く、どこか他へ行けるようにして頂戴。アパートなんか駄目ですから、建てるなり買うなり、とにかく何とかして頂戴。」(石川達三「悪の愉しさ」)

「頂戴・～て頂戴」には催促の意が含まないことを前述したが、ただし場面性やアクセント・抑揚の要素を考慮に入れると、場合によっては、命令のようにも受け取れるということを言い加えておく。もう一例をあげよう。家族間の会話ではよく耳にするものであろう。「喧嘩を止めて頂戴」(母親が子供に)、「掃除のじゃまだから、あっちへ行って頂戴」(妻が夫に)な

どの例である。これらは懇願的や要望的に命令しているとも受け取れるわけである。つまり表現内容（「けんかを止めること」「あっちへ行くこと」）が相手（子供・夫）に理解させ、何らかの行動を起こし、実現させることを発話者（母親・妻）が要望していると考えられる。⁵また「命令の意」を考えてみよう。概説の「命令の意」に引っかかる日本語の学習者もいるのであろう。命令と言ったら、「行く」に対して「行け」「行くな」のような言葉が浮ぶのであろう。しかし軍隊用語やごく一部の特殊な立場（社長が部下に）を除き、実際の日常生活ではソトの人間に命令形だけの言葉遣いは殆どしない。しかしウチの人間に（父親が子供に）「早く宿題をやれ」ということもあるが、母親なら「早くやりなさい」などによく使う。ただし敬語の命令形が使われるが、命令の意を表さないものがある。「いらっしやい・なさい・ください」など。

3 収集例による意味分類

「頂戴」と言ったら、「頂戴する」と、浮んでくる。分かりやすいからである。収集例⁶を本動詞の「頂戴する」、動詞的な漢語名詞の「～を頂戴」、補助動詞の「～て頂戴」にまとめる。これらを「頂戴」の三大文型と略称する。さらにこれらを「使用場面・意味分類・置き換え」から考察する。

「使用場面」：公的な場、半公的な場、私的な場

「意味分類」：文脈による意味分類

「置き換え」：意味分類による授受動詞への置き換えの可能性を指すこと。

言語の使用場面は「公的な場」と「私的な場」に分けるのが普通であるが、その中間に介する「半公的な場」もある。それぞ

⁴ 奥山（1976：41）からの借用例である。

⁵ 表現意図については、坂本（1998：p 26）に詳しい。

⁶ 収集例は、小説、インターネットから集めたものである。

れの定義を次のようにする。⁷

公的な場：公的な立場でプライベートな場ではない。話し手が1人で、聞き手が不特定多数であるのが特徴である。

半公的な場：話し手がプライベートな場でなく、仕事上での立場で話している。話し手は1人で、聞き手は1人か或いは不特定多数である。

私的な場：話し手がプライベートな立場で話しているのが特徴である。

授受動詞と言ったら、「やる・あげる・さしあげる」「くれる・もらう」「くださる、いただく」のような狭義の授受動詞と言われるものが浮かぶが、「借りる・貸す」「教える・教わる」「与える」などといったものは、広義の授受動詞の範疇に入るため、本論文では「頂戴」に関わりのあるもののみを扱うことにする。従って授受動詞に関しては恩恵的な言い方だけを対象にし、非恩恵的な言い方を考察対象から外す。ページ数の関係で敢えて収集例を簡略に挙げる。

3.1 「頂戴する」

本動詞として使われる「～を頂戴する」は「漢語名詞＋する」と認識され、かなりレベルの高い謙譲語である。これは「もらう」の謙譲語である「いただく」と同じ用法であるので、外国人の学習者にも比較的に分かりやすい。その働きは“話題主を低め、その行為の向かう相手方を高める表現のために用いられる敬語。”と定義する。（「2-2」を参照）

「～を頂戴する」は「敬意を表わして、いただき物などを目より高くささげ、頭をさげることとか、動作のしぐさと共に表現する」というのが本来の説である。「～を頂戴する」に関する収集例を分析した結果、殆どがプライベートな、私的な場であり、公的な場にはあまり使われないことがわかった。

⁷ 蔡（2006：p 145）によるものである。

〔例文〕

1) 神仏や帝に関するもの

- (1) 帝に向かってどういう言葉遣いをすればいいのかも、六郎はわからなかった。(中略)「いえ、**恩賞を頂戴するわけにはいかない**、と申し上げようと思いました」「ほう、なぜだ」「負け戦に、恩賞などあろうはずありません。**勝って恩賞を頂戴するのが**、軍人というものです。私は、幼いころより、そう教えられて育ちました」(楊家将一上 p138)
- (2) 深信解—深い心で信解するとは、法華經を頭腦の一角で論理的に理解する知識だけではなく、胸奥の深いところでうなずく信心の智慧です。深い心で信解し、さらに法華經を讀誦し、信奉する人は「**如来を頂戴したてまつる**」ことができるのです。**如来を頂戴したてまつるとは**、如来と衆生、法華經の教えと信者たちとの間の気持ちが通い合い衆生の信心と如来のはたらきが通じ合い如来と衆生とが融合することです。これを感応道交ともいいます。(いろはに法華經 p 140)

2) 家族間に関するもの

- (3) 若いそば屋こそ、昔の夫の市之丞であり、(中略)「…でも、こうして私が生きてる以上、あれだけはちょうだいしていつて、焼いてしまいますから…」(石中、p 2208) ※あれとは「俗名進藤まき子之靈位」と記された位牌のことである。(筆者)
- (4) 両親に宛てて、**言い訳の手紙**を書かざるを得なかった。昨年来、大変なお世話になって描き上げた拙作は、いろいろな経緯はあったものの、三等賞を**頂戴**することになりました。(それぞれ、p 188)

3) 客観描写に関するもの

- (5) 筆十郎は十年前のギャバジンを、ズボンの長さだけ詰めて、**有りがたく頂戴**していた。一年に一度か二度しか着る機会

がなかったが、中略。(地、p212~213)

- (6) 井上喜好上等兵は、戦車砲弾により右目失明、中略。さっそくその眼鏡を頂戴し、片方のレンズは取り去って、片方を煤で黒くし、彼は使用していた。(青春 p 217)

4) 「上・下／強・弱」の立場に関するもの

- (7) 土岐は神田三崎町の糸書房へ出かけた。中略。用立ててほしいと女社長にもちかけると、「先生、そういうお話は、お原稿を頂戴してからのことにしていただけません?」と、(中略)。

「原稿は二週間以内に、かならずとどける。なんとかしてもらえないかね」

「こういうことは、はっきりとケジメをつけた方がよろしゅうございます。お原稿さえいただけましたら、いつでも印税を支払わせていただきますわ」(中略)(風狂 p 865~867)

- (8) 筆十郎が溜息をついてから、廊下に出ると、青年が煙草に火を点けているところだった。「おたがい、大そうな役をもらったもんですねえ」青年は苦笑して煙を吐いたが、筆十郎の真面目な顔をみると笑いを押しかくして云った。(中略) プロデューサーに、突然筆十郎はこう云った。(中略)

「旦那より身分の高い役なんですってねえ。まあ大変な役を頂戴したもんですよ。ねえ」(地 p 243~246)

- (9) (作者が読者へ)(中略) その後は、順調に三年生まで成長して、倶楽部の運営会議にも参加させていただけるようになり、そして新たなミッション(使命)をちょうだいしました。(自分 p 43-45)

5) 緊急事態や望ましくない事態に関するもの

- (10) 黒助はフラフラと立ち上がると、懷ろに隠し持った短刀を引き抜いて、「奥様。お許し下さい。旦那様からのたつての

御命令で、いまここで貴女様のお命をちょうだい致さねば
なりませぬ。ごめん…」と、切りかかっていった。

(石中 p 2165～2166) ※黒助は下僕の老人である。(筆者)

収集例を使用場面、意味分類、置き換えから考察した。〔表-1〕
はその結果を示している。() は、用例番号である。

〔表 - 1〕「頂戴する」

使用場面：私的な場	意 味 分 類	置 き 換 え
1) 神仏や帝に関する 例：(1) (2)	いただく	(1)：変えにくい (2)：不可能※
2) 家族間 例：(3) (4)	もらう・いただく	(3)：両方とも可能 (4)：「いただく」
3) 客観描写 例：(5) (6)	もらう・いただく	両方とも可能
4) 「上・下／強・ 弱」の立場 例：(7) (8) (9)	もらう・いただく	両方とも可能
5) 緊急事態や望ま しくない事態 例：(10)	もらう	可能
6) 「たべる」の意。 「3.1.1」を参照 (11) (12)	いただく	可能

※ 置き換え：出来るという意を可能とし、出来ない意を不可能とする。

解 説：

1) 神仏や帝に関するもの：(1)は皇帝との会話、(2)はお経の教え（法華経）である。これは最も典型的な用法だと思われる。

「頂戴する」とは何か『日本国語大辞典』によれば、

“いただき物などを目より高くささげ（動作のしぐ
さとともに）頭をさげ、うやうやしくささげること
をいう”

とある。しかしこのような用法はそもそも宗教からきたものか
と思われる。神様、帝、お上の「威厳さ」を恐れ、鄭重にいう

のが「頂戴する」の始まりだと考えられる。意味分類は「もらう・いただく」の意であるが、(1)は典型的な謙譲語的用法である「もらう・いただく」に置き換えにくい。(2)は宗教関係の慣用的な用法なので、特殊的な例である。「もらう・いただく」へ置き換えができない。

2) 家族間に関するもの：(3)は失踪でもう死亡したと思われた妻が昔の夫と再会した場面である。かつて元夫婦とは言え、再会しても、赤の他人になってしまえば、敬語遣いをするのは不思議ではない。日本の社会組織では妻が夫に敬語遣いをするところがあるが、その逆は「男尊女卑」の悪習がまだ抜けていないか、まだ聞いていない。(3)も(4)も「もらう・いただく」への置き換えができる。家族間は、敬語遣いが要らない。

ただし家族間にも敬語を使う場合がある。「4 待遇表現」の項でまた触れる。(4)は公からもらった賞のことを両親に手紙で説明する場面である。別に「頂戴する」で表現しなくてもいいが、公から（上から下へ）もらうことになれば、やはり心理的にも多少丁寧に言おうとするのが普通であろう。なお手紙文では親にも話し言葉より多少丁寧な言い方になるのが普通である。しかしこの場合の「頂戴する」を使うのは、親を敬意配慮の相手とせず、「公」を相手にするところが見逃せない。この二例は(1)の典型的な謙譲語とは異なり、謙譲語から丁寧語に近づいていると言った方が妥当かも知れない。

3) 客観描写に関するもの：(5)(6)の例は作者が第三者としての客観描写で、その人になりきって過去のことを陳述する場面である。「もらっていた」も「いただいていた」も使用可能であるが、目前にいる本人に向かっては、やはり「頂戴しました」というほうが自然である。丁寧語だと思われる。

4) 「上・下／強・弱」⁸の立場に関するもの：この「上・下」と

⁸ 「上・下」は、「上位者・下位の者」を、「強・弱」は「強い立場・弱い立場」を指す。

は心理的なものも含まれる。これは日本の封建社会が崩壊したと言われても縦社会ではまだ見られる。会社などは、「社長・社員」がその代表的な例である。外にも「教師・学生」「医者・患者」「雇い主・雇い人」「客・店員」などの例もよく見られる。下位の者が上位者に敬語を使うのは、日本社会に見られる傾向である。(7)(8)(9)は謙譲語であり、「もらう・いただく」への置き換えができる。(7)は出版社の女社長と小説家の先生との会話場面である。周知の通り、女性の方が男性より、敬語を比較的使いやすい傾向にある。

①お原稿を頂戴してからのことにしていただけません？

②お原稿さえいただければ、いつでも印税を支払わせていただきますわ。(①②は筆者)

上記の(7)の①②例を考えてみよう。これらを「もらう・いただく」に変えても可能である。

①' お原稿をもらってから／いただいてからのことにしていただけません？

②' お原稿さえもらえたら／頂戴したら、いつでも印税を支払わせてもらいますわ／いただきますわ。

次の(8)の例を見てみたい。次の③は同じ役者同士であるから、青年は筆十郎を普通語の「もらう」で待遇表現する。これに対して、④は、筆十郎は雇い主である旦那にレベルの高い謙譲語を待遇している。

③「おたがい、大そうな役をもらったもんですねえ」(青年は筆十郎に言う)

④「まあ大変な役を頂戴したもんですよ。ねえ」(筆十郎は旦那に言う)

(9)は作者が読者に自分のことを陳述する場面である。「新たなミッション(使命)を頂戴しました」を「もらう・いただく」(次の⑤のよう)に変えても可能であるが、読者のことを「お得意さん」と思えば、やはり謙譲語の「頂戴する」を使いたく

なるという心理に納得する。

- ⑤「新たなミッション（使命）をもらいました／いただきました」

5) 緊急事態や望ましくない事態に関するもの：緊急事態や望ましくない事態のような場合には敬語が用いられにくい。(10)の「お命をちょうだい致さねばなりませぬ。ごめん…」の例は普通でない使い方である。雇い人が雇い主の命令で、奥さんを殺害する場面である。雇い主の元妻を敬意の顧慮対象にする。しかしこれは謙譲語的な用法でなく、丁寧語というべきであろう。普通、犯人が被害者に敬語遣いをするとなれば、皮肉な言い方になる。強盗などに入られた緊急の場合を考えれば分かるであろう。「あなたを生かしては、私が困る。だから、お命をもらわなければ…」と言えないことはない。しかし「お命をいただかなければ…」或いは「お命を頂戴しなければ…」というように、果たして丁寧という余裕があるのか。つまり火事や地震のような緊急事態の場合は「危ない！逃げろ」というのが普通である。敬語が要らないのである。

まとめ：「頂戴する」を考察して、次のことがわかった。

使用場面：私的な場に使われるが、公的な場には使えにくい。

1) 宗教関係のような慣用句や神仏や公には、「頂戴する」が使いやすいが、緊急事態や望ましくない事態には、使わない。

2) 敬意の配慮対象はソトの人間である。話し手が男女とも関係なしに使える。

3) 「食べる」の意である。次の 3-1-1「食べる」を参照。

意味分類：「もらう・いただく」の意。

置き換え：

4) 家族間の会話、緊急事態の場面には、「もらう」が比較的に使いやすい、「頂戴する」が使いにくい。

5) 「上・下／強・弱」の立場、客観描写のような場合は、「もらう・

いただく・頂戴する」のどれを使うかは、場面、状況により、作者の待遇態度⁹に任せる。

3.1.1 「食べる」の意であるもの

本来、「いただく」は頭上に載せる意味を表した語である。中世以降，上位の者から物をもらう際に頭上に載せるような動作をしたことから「いただく」に「もらう」という意味の謙讓用法が生じた。やがて上位の者からもらったものや神仏に供えたものを飲食する際にも頭上に載せるような動作をし、食事をしたここから飲食をする意味の謙讓用法が生まれ、食事を始める際の挨拶として「いただきます」というようになった¹⁰。

また、誰に対して「いただきます」というのか、面白い説があるので、紹介する。

「いただきます」は日常的な習慣となっている。料理や食材を作った人びとに思いを致し、その労働を頂戴している、という了解もありうるだろう。しかし、その原義はそもそも多種多様な動物や植物の「いのち」をいただいているという意味ではなかったか。こうした認識は今日ますます重要であると思われる。地球上で1人勝ちをつづけてきた人類がいよいよ引責しなければならない現在、最も重要な認識とは、こうした謙虚さではないだろうかと、小長谷（2005：p 1 巻頭言）が述べている。

〔例文〕

(11)「二人が出て行った後で、我輩は一寸失敬して寒月君の食

⁹ 待遇態度とは何か、「4-2 待遇表現とは」を参照。

¹⁰ 『語源由来事典』によるもの。

い切った蒲鉾の残りを頂戴した。我輩も此頃では普通一般の猫ではない。中略。蒲鉾の一切位頂戴したって人から彼此云われることもなかろう」(漱石、p32)

- (12) プロデューサーは青くなって、また筆十郎を詰問したが、
「へえ、御膳はずっと頂いてません」と澄ましている。
(地 p 243~246)

解説： (12)は「いただく」の用例であるが、「頂戴する」と比較するため、入れるのである。「飲食」に対して「食べる」の意である「いただく」「頂戴する」という言い方があるが、「もらう」には「飲食」の意にならず、置き換えられない。収集例の(11)は一見、謙譲語的な用法であるが、丁寧語的な用法である。また「4-2 待遇表現とは」で述べる。まず動作主を考えてみたい。(12)は、動作主が話し手であり、自分の動作をへりくだって言う「頂戴する」を謙譲語として使われる。一方、(12)は動作主が目前にいない第三者を客観描写する場面である。従って、敬意の顧慮の対象は、第三者でなく、目の前にいる聞き手であるから、「丁寧語」の範疇になる。

3.2「～を頂戴」

「～を頂戴。」は動詞的な漢語名詞として使われ、無活用動詞である。助詞の「を」省略し、ただ「頂戴」だけという形もよく耳にする。収集例には両方とも出ているので、いっしょにする。両者は親愛語として使われ、相手に要求・指示・懇願という意を、親しみを込めていう語である。ウチの者にもソトの人間にも使える。ただし目上のヨソの人には使えにくい。「～をしてください。」の意味である。『日本国語大辞典』(1976)によれば “『何かご褒美を頂戴』と女は急に甘へる様に云った」というような用法はもと、手で物をいただくしぐさと共に「頂戴仕る」の省略形として用いられたのに始まると思われる。

明治以後現代では主として婦人、幼児語として用いられる”という。松下（1923：p33-34）も、頂戴、拝見、拝借は、無活用動詞であるという。奥山（1976：41）は“物をくれたり動作をしたりすることを促すことばとして「頂戴」「～て頂戴」があるが、これは敬語とはいえない”。これについて「4 待遇表現」でまた触れる。

筆者は「～を頂戴」「～をして頂戴」を敬語表現の親愛語として、認識する。定義は「4.1 親愛語は」で後述する。大石（1976：p 130-131）も親愛語を待遇語の一類と認める。なお、「頂戴」を聞き手親愛語とよび、専ら聞き手に対するものである。ぼく（男児への呼びかけ）、いらっしゃい、ちょうだい、なさい、おいで、など。¹¹

辞書の概説にあげる次の用例を考えてみよう。

- ・「頂戴」：「イワシを3匹頂戴」「これ、一つちょうだいな。」
- ・「て頂戴」：「その新聞を取って頂戴」、「この本を見せて頂戴」、

このような言い方は下町言葉ではないかと思われ、伝統的な日常生活用品の店や伝統市場、個人商店などの場合なら、お互いに親しみを感じられ、よく使われる。顔なじみの客が多いからである。一方、ブランド品店や大きいデパートのような所では「ください」を使うのが普通であろう。もし使われたら、親しみどころか却って品格が落ち、少々不愉快さを与える恐れがある。前者と比べ、後者の方は顔なじみの客が少ない場所であり、ビジネス敬語が使われると伺える。

待遇語というものは表現的、心理的なもの、社会関係に密着する言語生活、言語行動的側面の強いものであるため、場に応じて待遇的働きを変える、互いに流用されるものがあるからである（大石、1976：p 130-131）。

¹¹ 大石（同書）は、親愛語を一般親愛語と聞き手親愛語に分ける。一般親愛語は、聞き手を含んで一般者に対するもの。「～さん、～くん、～ちゃん、パパ、ママ、あげる、人の名の呼び捨て」の例である。

言語生活も、常に時代と共に変化するものだと認識される。「頂戴する」は謙讓語として使われるが、「～を頂戴」は謙讓語的な用法から「親愛語」に変わったと言えよう。

〔例文〕

1) 家族間の対話

(13) 席を立った^{はじめ}一に、母は初めて甘えてみた。「ねえ、お茶、頂戴」「自分でやりなよ、もう…」(中略。)(君、p39)

(14) 妻が妹を連れてきた。「これちょうだい」ハナがそう言って…中略。(宵 p 76-89)

2) 学校関係

(15) 「ヤッター」「教えてあげたんだから、先生の給料、ボクにちょうだい」(授業 p 37-38)

(16) おやつの時間です。りょう「今日のレモンキャンティーはおいしかった」みんなが「ちょうだい、ちょうだい」って言って(中略)。(うちの子、p 73)

(17) 内山由季子先生から拓也君への手紙

お盆を過ぎてからは半袖のブラウスでは肌寒く感じます。(中略) また、手紙をちょうだい。(雪 p 71-13)

3) ビジネス関係

(18) 和服の女が、「勘定は小切手を渡すからというお話だったのよ。小切手ちょうだい、番頭さん」(石中 p 321-324)

(19) お銀さんは「あんなこと言って…。今度顔を当りに来たら耳を剃ぎ落してやりますからね。貴方、私にも一杯ちょうだい。…中略。」(石中 p 943-945)

(20) ハル子さんは、「あら、上手な紙芝居屋さんね、壺円やるから飴ちょうだい」と言ったという。(石中 p 679-680)

〔表-2〕は考察した結果である。() は、用例番号である。

〔表 - 2〕「～をちょうだい」

使用場面：私的な場	意 味 分 類	置 き 換 え
1) 家族間の対話 例：(13) (14)	くれ・ください	両方とも可能
2) 学校関係 例：(15) (16) (17)	ください	可能
3) ビジネス関係 例：(18) (19) (20)	くれ・ください	(18)：ください (19) (20)両方とも可能

解説：

- 1) 家族間の対話：(13)も (14)も家族間の会話場面である。家族間の会話では命令形の「くれ」も「ください」も使われる。しかし女性なら「ください」の方は比較的言いやすいが、男性なら、「くれ」への言い換えも可能である（お茶、くれ）。要求や指示、或いは懇願というニュアンスが取れる。
- 2) 学校関係：(15) (16) (17)は教師と生徒との対話である。毎日顔を合せる親しい間柄だから、使われやすい。(15)は男子生徒はまだ子供であるから、「ください」より頂戴の方が使いやすい。(17)女先生が教え子に出す手紙文である。「手紙をください」というのが普通であるが、「頂戴」が使われるのは、不自然ではない。(16)は場面による「ちょうだい、ちょうだい」というように重ねて使うと、強く「促す」ニュアンスが取れる。(2.4を参照)
- 3) ビジネス関係：(18)は飲み屋のお上さんが集金に来た場面であり、お得意さんには命令形の「くれ」が言いにくい、(19) (20)では「くれ」が言えないことはない。(19)は客もいる店頭で自分の夫に「(酒を) 一杯くれ」、(20)、「飴、くれ」と言えないこともないが、女性には「ください」のほうが言いやすい。しかし、この場合、「ください」は社交敬語とも言えよう。(19)は直接的な敬語の配慮相手を夫にするのではなく店頭にいる客にしているから、美化語に入れたい。

まとめ：「～を頂戴」をした結果を次のように示す。

使用場面：私的な場に使われるが、公的な場には使えにくい。

1》家族間などのようなプライベートな場によく使われる。

2》学校でも使われ、親しみを感じるから比較的使いやすい。

家族間と学校関係によく使われる「頂戴」は親愛語である。

3》ビジネスには、あまり使わないが、非常に親しい常連客には使われ、美化語と見ていい。

意味分類：「くれ・ください」の意。

置き換え：「くれ・ください」の選択は、話者の待遇態度によるものであるが、次のことが言えよう。引用文節を除き、女性には「くれ」より「ください」の方が比較的多用される。しかし親しい間柄では「頂戴」の方がよく用いられる。一方、男性なら、「頂戴」の代わりに「くれ」を使うこともよくある。これも親しい仲間や家族に限る。（「母さん、お茶くれ」など。）

3.3 「～て頂戴」

「～て頂戴」は補助動詞として使われる。補助動詞の「～てください」の意である。なお漢語名詞の「頂戴」とも親愛語として私は認識する。文法の働きは「～を頂戴」と同じであり、文末は活用しない。松下（1930：p394-400）は、「利益態」ということを説いている。なお、「～て頂戴」「～ていただく」「～てもらう」「～て願う」の類を「自行自利態」と称し、“他人の動作を受けて自己の動作とし、その受けることが自己の利益であることを表す”という。

収集例をまとめると、次のような場面で使われる。ページ数の関係で、例を簡単にあげることもある。

〔例文〕

1) 家族間の会話

(21) 元子は、知也が出ると、「きてちょうだい。ええ、すぐ」「あ

なた、起きてください」元子に揺り起こされて、土岐は眠りから醒めたが、…中略。(風狂 p 1353～1355)

(22)酒場に於ける刑事とマダム亜紀子との問答、中略。「牧山先生はここのうちに借金がありますか」…中略。「見てちょうだい。あんた…ちょっとお待ち下さい」(七人 p 129～130)

(23)引っ張られている女の子は、やっと胸から上をもたげて、「うちはよか。あんた逃げて頂戴。中略。」(紫 p 66)

(24)「お母さんだよ、開けてちょうだい。まだ寝てるの。急ぎの用事があるから、早く開けて」(人生 p 83)

(25)彼女は「貯金は半分のこして置いてちょうだい。半分はわたしの分ですからね」…中略。(人間、 p 583～585)

(26)「気にせず寝て頂戴」と私が言ったら…中略。(ガン p 47)

(27)「わかってあげてちょうだい」(風狂 p 342～344)

(28) 母ギツネは、「今朝はおきてちょうだい。」(いなり p 41)

(29)母は「今日はお願いだから行ってちょうだい」(僕は p 29)

(30)母「おいしそうなのをとってきてちょうだいね」(声 p 39)

(31)「レオン、レオン！起きてちょうだい！」(天 p 22-23)

(32)「いいえ、教えてちょうだい」(家康 p 123)

(33)「メモしてちょうだい」(幽霊を p 129)

(34)「お父さん、ええかげんにしてちょうだい」(赤 p 86)

(35)「お母さん、いっぱいごはんをたべさせてちょうだいね」
「それまで辛抱してちょうだいね」(脱 p 85)

(36)「ほんの暫く、待っててちょうだい」(風狂 p 247～248)

(37)「ダメだって言っってちょうだい」(幻想 p 29)

(38)「自分をもっと大切にして頂戴！」(愛 p 350)

(39)「信夫さん、先に休んで頂戴ね…中略。」(擁 p 27～28)

2)学校関係

(40)「学校へ来るときに、寄ってみてちょうだい。先生が心配していたからって。…中略。」(人間 p 1109-1110)

(41)志野田先生はゆっくりと中略。「僕の名前、知ってる？」

「知らない。教えてちょうだい」(人間 p 176～177)

(42)「自分の名前を大きな字で書いてちょうだい。」中略。学級経営の第一歩は、子供の名前を知ることであった。名を知ることによって、あたらしい先生と生徒とのあいだは何歩か近づいてくる。(人間 p 187～188)

(43)「腹が立ったことも書いて頂戴」(人間 p 191～192)

(44)「和田君…」と先生はやさしく呼びかける。「その写真、先生に見せてちょうだい」(人間 p 469～470)

(45)山本拓也から内山先生への手紙

プレゼントを送ります。受け取ってください。(雪 p 71-13)

3)友人・恋人同士

(46)「八重子。でもこの決心だけはいくら相手が貴女でも変わりません。分かって頂戴。」(女 p112)

(47)ジーンは「私はここにいないと言って頂戴」。(AMERICAN PROMETHEUS p263)

(48)母は、「そうしてちょうだい」(美人 p 13-14)

(49)「そっちはそっちでやってちょうだい！」(思い、p 154)

(50)麗子は言った。「もう半年待って頂戴。」(拾 p205～206)

(51)「今は、私のことだけ考えてちょうだい。」(残照 p 110)

(52)「私は疲れたの。わかって頂戴」(超人 p 132－133)

4)ビジネス関係

(53)品のよい奥さんが出て来て、「あら、美味しそうね。じゃ、これに十枚のせて頂戴」(五円 p 112)

(54)澄江夫人は「中略。…ねえ先生、今夜はゆっくりしてちょうだいよ。何でも御馳走するわ」(人間 p 489～490)

(55)そして。「さあ、顔を洗ってちょうだい」と言ってみるのです。(本 p 310)

5)「上・下／強・弱」の立場に関するもの

(56)僕は「見てきてちょうだい」と、中村看護婦に言うと、「はい」と、元気良く飛び出して行った。(外科医 p 113)

(57)いきなり元校長がかな子の背中を掌で押すようにした。中略。「かまわないから、伝票でも何でも整理してちょうだい」(晴 p 246-247)

〔表－3〕は「～てちょうだい」を考察した結果である。() は、用例番号である。

〔表－3〕「～てちょうだい」

使用場面：私的な場	意 味 分 類	置 き 換 え
1) 家族間の対話 夫婦：(21)～(25) 親子：(26)～(37) 兄弟：(38)、(39)	「～てくれ・～ てください」	両方とも可能
2) 学校関係 (40)～(45)	「～てくれ・「～ てください」	可能であるが、「く ださい」の方が望ましい。
3) 友人同士 友人：(46)～(49) 恋人：(50)(51)(52)	「～てくれ・～ てください」	両方とも可能
4) ビジネス関係 (53)(54)(55)	「～てくれ・～ てください」	可能
5) 「上・下／強・ 弱」の立場：(56) (57)	「～てくれ・～ てください」	上から下に：両方とも 可能。 下から上に：ください

解 説：

1) 家族間の対話：気を使わない家族間では「～て頂戴」のような言い方がよく使われる。(31)の「祖母が孫との会話」と、(38)の姉妹の会話、(39)「義理の兄弟との会話」を除き、殆どが「夫婦の対話」及び「親子の会話」である。前述したように女性は命令形の「～てくれ」を夫に対して比較的言いにくい。夫なら逆に「(23)の例、逃げてくれ」と言っても不思議ではない。この場合は親愛語とも言えるが、しかし、(22)は夫婦二人だけの会話でなく、刑事や客がいる店頭で夫にいう場面である。(21)は子供に「来て頂戴」、夫に「起きてください」を使って

いる。(21) (22)は「4-2」でまた触れよう。(24)は「2-4」で述べたように「開けてちょうだい」より、「早く開けて」の方が「促す」ニュアンスが取れる。

2) 学校関係：

(40)～(45)は教師と生徒との会話である。「3.2 頂戴」で触れたように、毎日顔を合せるから、気軽に「～て頂戴」が使える。生徒たちとの距離感が縮まると思われる。(45)は「～て頂戴」の用例ではないが、比較するには、良い例である。先生への手紙文であるから、目上の先生には「～て頂戴」が言えない。意味分類は、「～てください」という意味である。

(42)の“名を知ることによって、新しい先生と生徒との間は何歩か近づいてくる。”ということが少々気になる。名前を覚えるだけでは「何歩か近づいてくる」ことができないはずである。外にも表情や言葉遣いの選択も大きく左右されると思われる。この「～て頂戴」こそ、その役割を働かせてくれる。

3) 友人・恋人同士

これらは友人同士や恋人同士の会話である。親しい間柄なら気軽に使われる。(49)は先輩と後輩の対話である。

4) ビジネス関係

(55)は商売の宣伝であるが、引用節である。相手が赤ちゃんであるため、「～てくれ」より、「～て頂戴」の方が使われやすい。(53)は客が物売りの人に言う場面である。この例では親愛語とも丁寧語とも言えよう。「4 待遇表現」でまた述べる。

(54)は店のお上さんがよく馴染みの常連客に使われる場面である。町の飲み屋のお上さんが客を自分側に引き寄せ、親しみを感じさせるため、働きかけるという場面はテレビのドラマにはよく出てくるシーンなので、想像ができよう。

5) 「上・下／強・弱」の立場から

(56) は医者が見護婦（士）¹²に言う場面である。患者が見護士を呼び出すベルを鳴っている緊急事態なのである。医者がこれを「～てくれ」に言い換えることも可能である。「～て頂戴」の方が親しみを込めたニュアンスがある。(57) は校長が事務員に言う場面である。「医者・校長」がその会社（病院・学校）の組織の中で「見護士・事務員」より、上位者や上司に位置する立場であるからだとも言えよう。毎日顔を合せる部下には比較的使いやすい。この二例は男性にも使われることに興味を持つ。

まとめ：「～て頂戴」

使用場面：私的な場に使われるが、公的な場には使いにくい。

1》家族間のようなプライベートな場でよく使われる。収集例

には《妻が夫に、母親が子供に》の場面が一番多く出ている。親友同士・学校関係にも使われ、親愛語と見ていい。

2》商いのような場にも使われる。これらは馴染みの常連客であるなら、使われやすい。美化語として使われる。

3》上位者が親しい下位の者に使いやすく、親愛語に入りたい。

意味分類：「～てくれ・～てください」の意。

置き換え：文法機能は「～を頂戴」と同じである。家族や親しい友人などに男性なら命令形の「くれ」を使う傾向があるが、女性は「～て頂戴」を多用する。しかし妻が夫に「ください」を使っている例も見られる。(21)の例。

4 待遇表現から見た「頂戴」などの位置づけ

4.1 親愛語は、敬語なのか

「3.2」で触れたが、大石（1976）は「頂戴」を聞き手親愛語と称するが、奥山（1976：41）は、「頂戴」「～て頂戴」を敬語だということを認めない。奥山が「敬語」と言ったのは、

¹² 今の日本では「見護士」と言われているようである。

狭義の待遇表現の意味を指していると思われる。従って「親愛語」は広義の待遇表現の範疇に入るから、敬語であると言える。(2.1を参考) 本論文で扱っている考察の対象とする三つの文型を広義の待遇表現の構造から、大まかに分類すると、次のようになる。

- ・「頂戴する」：謙讓語
- ・「～を頂戴」：親愛語
- ・「～て頂戴」：親愛語

分類の定義は前記の「2.1」宮地(1968)に従う。宮地は親愛語とは何かと定義していないので、筆者は“親愛の表現・愛情を示す表現であり、親しい間柄でないと使えない。使うと、失礼に当たる。また要求・依頼・指示・懇願というニュアンスが取れる。”と定義しておく。

4.2 待遇表現とは

「待遇表現」とは、何かを分かりやすく言えば“話者が聞き手や話題の人物をどんな表現で待遇するかということ”である。これについて、話者の“その待遇表現の態度”を話者の「待遇態度」と呼びたい。なお言語表現の選択余地があるとき、どんな待遇表現にするかは、全て話者のその待遇態度に任せるということになる。同じ「食べる」でもどう違うか、一例をあげてみよう。(11)(12)の例を飲食に関する動詞に変えてみれば、もっと分かりやすいであろう。

⑥我輩は寒月君の食い切った蒲鉾の残りを**頂戴**した。(11)

⑦我輩は寒月君の食い切った蒲鉾の残りを**いただいた**。(12)

⑧我輩は寒月君の食い切った蒲鉾の残りを**食べた**。

⑨我輩は寒月君の食い切った蒲鉾の残りを**食った**。

さらにこれらを待遇表現からみた丁寧度について少々触れておく。数値で表すと、次のとおりになる。数値が高い方が丁寧である。0は普通語であるから、相手に敬意の顧慮をしないと

いう意である。

「ちょうだいする」(謙讓語): +2

「いただく」(丁寧語): +1

「食べる」(美化語): 0

「食う」(普通語): -1

言葉も時代と共に変化をみせてくれる。普通語だった「食う」は、現代日本語としての語感**は**美化語だった「食べる」より少々「粗野・ぞんざい」であると感じられる。現代日本語では**飲食**に対する「いただく」は謙讓語というイメージが少々薄くなってきており、丁寧語といったところであろう。

(12)の方は、(11)より、それほどレベルの高い謙讓語でなく、日常生活上では比較的に言いやすい「挨拶言葉・決まり文句」に近いものだと言えよう。遠藤(1999)によれば“挨拶語、決まり文句など、形式化しているものは、敬語使用の意識が、薄い”と思われる(p 83、98)。(11)の「頂戴する」は文脈からみれば謙讓語でなく、少々相手を馬鹿にするニュアンスが含まれる。また主語の「我輩」は男性が用いられ、現在では**尊大な自称語**である。敬語には皮肉的(アイロニー)な効果もある。この場合は**マイナス敬語**のものと思われるが、広義の待遇表現なので敬語である。(12)の例は、丁寧語と言えよう。(3-1-1を参照)。しかし、**恩恵受けの授受動詞**として使われる「いただく」は**謙讓語**である。「いただきます」も次第に謙讓語のイメージが薄くなってきており、社交敬語の類であると言えよう。筆者は丁寧語だと呼びたい。聞き手を敬意の配慮対象とする用法であるから、丁寧語の範疇に入る。また同じ「いただき」の(18)の例の「勘定をいただきに来ました」に戻り、次の文を比較しよう。

⑩ 勘定をもらいに来ました。(普通語)

⑪ 勘定をいただきに来ました。(謙讓語)

⑫ 勘定を**頂戴**に来ました。(親愛語・丁寧語)

⑬ 勘定を頂戴。(親愛語)

というように表現できる。しかし相手にどのような表現を選択するかは前記したように話者の待遇態度によるものである。

4.3 美化語について

家族間に使われる敬語は丁寧語であると言えよう。「頂戴する」はレベルの高い謙譲語として使われるが、「家族間には、使えない。敬語遣いが要らないのは、敬語のルールなのである。しかしウチの人間にも敬語を使うこともある一例をあげてみよう。これは、ウチ輪の人間に限る。結婚記念日などのお祝いに「何がいい？何でもいいから、言ってみろ」と仮に夫が妻に聞くことにしておき、「じゃ、今度は、**ダイヤモンドの指輪を頂戴したい(です)わ**」など、というように妻が言えないことがない。この場合は夫を立てるというより、夫に甘えたいニュアンスが取れる。これは謙譲語でなく、**美化語**の範疇になる。これは聞き手である「夫」を敬意の顧慮の対象とせず、むしろ尊敬語や謙譲語とも関係なく、自分自身の言葉遣いを上品にする働きがあるから、**美化語**の範疇に入る。(21)の例は妻が夫に「あなた、起きてください」というのは、美化語の類に入れる。「ください」は「くれ」の尊敬語や「くださる」の命令形「くだされ」の口語形とも言われる¹³。女性はウチの者には「頂戴」、「～て頂戴」をよく使うが、ソトの人間には「ください」を使いやすい。「くれ」を使いにくいからであろう。しかしこの場合の「ください」は社交敬語のもので、美化語の分類に入れない。なお、ビジネス関係に関する場面もこの分類に入る。(22)は夫婦二人だけの会話でなく、刑事や客がいる店頭で夫にいう場面であるが、刑事や客を意識し、美化語を使うのは、お上の女心であろう。(53)(54)(55)の例も同様である。もちろん、親愛語のニュアンスにも取れるし、美化語のニュアンスにも取れる。

特に(53)の例、「品のよい奥さんが」というのは、ポイント付けになる。大石（1976：p 131）も「頂戴」が“親愛語・美化語を合せ持つものと見ていいかも知れない”と述べている。

5 小さなアンケート

“「頂戴」と言ったら、何？”と学生たちに聞いてみたら、なんと殆どが謙譲語だという答えであった。これに対して、日本人は「頂戴」にどんなことを浮かべるかということに興味を持ち、小さなアンケートを試してみた。次の用例は立教大学門奈研究室の小峰満子さん並びに大学院生の皆さんに書き表していただいたものである。ご協力いただき、深く感謝の意を表する。

「頂戴」の語形について一言、述べておきたい。

<1>「頂戴・頂戴する」には「お／ご」がつかない。

<2>「頂戴・～て頂戴」には、活用がなく、連体修飾の文節も存在しない。

立教大学の皆さんによる収集例に気になるものがある。次のものである。

ア「先ほどお電話頂戴しました。」（貰う）

イ「これを頂戴できますでしょうか？」（貰う）

まず何が気になるかというと、「頂戴・頂戴する」には、敬意の接頭辞の「お／ご」がつかないのである。「お電話」の「お」は美化語なのか、付加形式の「お～いただく」のような「お～」なのか、微妙なところである。美化語のつもりなら、助詞の「を」の省略になる。付加形式なら、「（お）～いただく」のように、「お」の省略する形式がないから、「を」の省略ができない。従って「頂戴」には、「お／ご～頂戴する」という形式が存在しない。また、イの「これを頂戴できますでしょうか？」を考えてみよう。謙譲語的用法の付加形式の「お～できる」（お手伝い

¹³ 『明鏡国語辞典』によるもの。

できます)があっても、「お／ご～頂戴できる」という形式は、存在しない。これを「いただく」の可能形の「いただける」に置き換えれば、自然な文になる。

ウ「これをいただけませんか？」

「頂戴する」は文末には活用できるが、「を頂戴」と「て頂戴」は活用できないため、連体修飾ができない。＊は非文である。

エ これを頂戴する・した人…

オ＊これを頂戴の人…(非文)

カ＊これを作って頂戴の人…(非文)

その用例を纏めると、「頂戴する」、「頂戴」、「～て頂戴」の三大語型がある。これは私の収集例にも見られるものなので、語形が決まっているのだと言えよう。

ページ数の関係で代表的な用例だけを簡略に挙げる。これらの例を見ると、(11、34、35、36)の例を除き、日常生活で品物や恩恵的な行為の授受に関するものが多い。これは、元の「上からものをいただくときに、動作のしぐさと共にしながら、言う語」というようなかたいイメージから脱した現代日本語として、使われる言い方なのだと示唆してくれる。次の1)～18)の用例は、いずれも「もらう・いただく」に言い換えができる。ただし10)、11)の例は謙譲語とは異なる。10)「君からチョコを頂戴したい！」の例は謙譲語でなく、男女の友人同士が冗談半分のつもりで言ったニュアンスが伺える。謙譲語のつもりなら、「いただく」の方がよい。11)の「元気を頂戴した」は自分に元気がついたとか、励まし、やる気が湧いて来たという意味にもなる。34)の「お命頂戴に来た。」は緊急事態の場合であり、時代劇のシーンにもよく出てくるような感じであり、少々皮肉的(アイロニー)な効果もある。現代語なら、「もらう」の方が言いやすい。35)はもらい泣きのことを言っている。36)「お情けを頂戴(同情を引く)」は、あまり耳にしないが、「同情するなら、金をくれ」(ドラマのセリフ)なら、一時的

に流行っていた言葉である。今でもまだコマーシャルに使われている。

37) ～40) は特殊用法となる。37) 38) は善光寺にはこういう儀式がある。39) 40) は固有名詞の商品名であり、上着の半纏のことを言っている。

[1]「頂戴する」

- 1) 美味しくなければ御代は頂戴いたしません。(店の主)
- 2) お手紙を頂戴いたしました、すぐにお返事を差し上げることが出来ず申し訳ございません。
- 3) 先生のご本をありがたく頂戴します。(貰う)。
- 4) 先日は結構なお品を頂戴して誠に有難う。(貰う)
- 5) 物を「頂戴」したら、なんと言うの? 「ありがとう」と言っ
て頭を下げるのよ。(親子の会話)
- 6) 頂戴した仕事に邁進する。
- 7) お言葉を頂戴しました。(講演)
- 8) 「お小言」を頂戴した。(貰う)
- 9) 町内運動会に出て、ビール券をもらった。思わぬおこぼれ
を頂戴してうれしかった。
- 10) バレンタインデーには君からチョコを頂戴したい!
- 11) 頑張っている姿に接して、元気を頂戴した。
- 12) おひねりを頂戴した。(役者が観客からお祝儀をもらう)

1-2 意味分類: 「食べる」意

- 13) もう結構です。十分頂戴しました。
- 14) 「ご自由にお召し上がりください」
「楽しくいろいろ頂戴しております」
- 15) 美味しく頂戴しております。
- 16) 「お茶を一服どうぞ」→「遠慮なく頂戴いたします」。
- 17) 「美味しいお菓子を頂戴してありがとうございます。」
- 18) 一口頂戴。

〔2〕「～を頂戴」

- 19) 「お母さん、このお菓子を頂戴」
 20) 「お母さん、今日のバス代を頂戴」
 21) お金を頂戴。22) お年玉を頂戴。23) お駄賃を頂戴。
 24) おつりを頂戴。25) お土産を頂戴。26) 少し休みを頂戴。

〔2.1〕助詞「を」の省略

- 27) これ、ちょうだい。28) お手紙頂戴。メール頂戴。
 29) おしぼり頂戴。30) お酒頂戴。31) 慰謝料頂戴。
 32) ご意見頂戴。33) コメント頂戴。34) お命頂戴に來た。
 35) お涙頂戴。(芝居や映画で、観客の涙をそそるのを目的として作られたもの。またはその場面)(もらい泣き)
 36) お情けを頂戴(同情を引く)

〔2.2〕特殊用法にも見られる「頂戴」

- 37) 善光寺で『御印文頂戴』(ごいんもんちょうだい)
 38) 善光寺で「お数珠頂戴」(おじゅずちょうだい)
 39) 新潟県産丸栄製粉「頂戴そうめん」
 40) 白波二人羽織「天下頂戴」

〔3〕「～て頂戴」

- 42) 明日来てちょうだい。43) お使いに行ってちょうだい。
 44) お兄ちゃん、一緒に遊んで頂戴 45) 紅茶を入れて頂戴。
 44) 一緒に帰ってちょうだい。47) おしょうゆを取って頂戴。
 48) もう少しおさえて頂戴。49) まかして頂戴。
 50) 説明して頂戴。51) 抱っこして頂戴。(子供)

外にも次のような名詞が出ているが、研究対象から外す。

- ・猫に「頂戴」を仕込む。頂戴のしぐさを教える。
- ・頂戴物(いただき物、もらい物、頂戴した物)

6 まとめ

記述上の便宜をはかり、「頂戴する」をⅠとし、「～を頂戴」と「～て頂戴」は、Ⅱと称する。語形が違うが、文法の機能が

同じなので、敢えていっしょにまとめる。それぞれ使用場面、意味分類、及び置き換えなどの事項を比べるため、〔表－４〕を作成した。（ ）は、用例番号である。

〔表－４〕

比較事項	I 「頂戴する」	II 「頂戴」「て頂戴」
使用場面	私的な場、	私的な場
待遇表現の分類	謙譲語：(1,7,8,9) 謙譲語：(3,4,5,6, 10, 11)	親愛語：(13~17, 21, 23~52) 美化語：(18,19,20, 53,54,55)
敬意の顧慮対象	行為の向かう相手	聞き手
意味分類・置き換え	「もらう・いただく」 目上には「もらう」が不適切である。	「くれ・ください」 男性なら使われる。
使われる対象	・「ソト」の人間 ・「上下」関係なし	・「ウチの者」 ・親しい間柄
使用者	男女とも	女性・子供

上記の〔表－４〕の「待遇表現の分類」「意味分類と置き換え」について、次のことに触れておきたい。

待遇表現の分類：I は敬意の顧慮対象を行為の向かう相手にする場合、謙譲語であるが、聞き手にする場合、丁寧語になる。II は家族・親友間・学校関係によく使われ、親愛語になりやすいが、美化語というニュアンスが取れる場合もある。特にビジネス関係の場合は、この類である。

意味分類と置き換え：I は「もらう・いただく」へ置き換えができるが、目上には「もらう」が不適切である。II は「くれ・ください」へ置き換えが可能であるが、「くれ」は男性なら使われる。

以上、観察してきたことを結論として次のように纏めた。

【結 論】

本論文を敬語動詞「頂戴」を三つの語形で「使用場面・意味分類・置き換え」から考察した結果、下記のことが分かった。

1》待遇表現の分類¹⁴：ⅠもⅡも敬語である。

Ⅰは謙讓語であるが、丁寧語として使われることもある。Ⅱは親愛語であるが、美化語として使われることもある。

2》「催促・命令」の意：Ⅱには初めから左記のような意は含まれない。ただし場面性やアクセント・抑揚の要素を考慮に入れると、場合によっては、命令のようにも受け取れる。

3》敬意顧慮の対象：Ⅰは「ソト」（または「よそ」）の人間を行為の向かう相手にするから、家族には使いにくい。Ⅱは「ウチの者」に限り、「ソト」の目上の人には使えない。しかし、親しい友はウチの者とみなす。

4》Ⅰは男女ともに使えるが、Ⅱは女性・子供に多く使われる。時に男性が使う例も見られる。(56) (57) (18)の例である。

5》使用場面：私的な場のみである。しかし、結婚式や講演などの改まった場でも用いられるかと思われる。「お祝辞を頂戴しました。」など。

6》意味分類：神仏関係や慣用句のようなものを除きⅠは、「もらう・いただく」の意で、Ⅱは「くれ・ください」「～てくれ・～てください」の意である。

7》置き換え：意味分類による置き換えの意であるが、言葉遣いに選択の余地があるとき、どちらかを選ぶかは、話者の言語待遇の態度に任せる。

7 終わり

「2-1」でも触れたが、敬語は人と人との相互尊重の気持ちを基盤とすべきものである。言語生活も正にこの基盤の上にたって進んでいる。現代日本語では敬語表現の使用意識が次のよう

¹⁴ 敬語のことを待遇表現とも言われる。

な変化を見せてくれることを否定できない。日本人の現代敬語の使用意識¹⁵は、下記のように構成されている。勿論、曖昧さや複合性があるとしても、若い世代ほど、この意識は、強いように見える。

あらたまり＞へだて＞品位＞美化＞親愛＞

親愛語は＜近づき＞という働きがある。一方、卑罵語は＜遠ざけ＞、非敬語の働きがある。親愛語は卑罵語とは隣り合わせのものであるから、対照的なものである。私の収集例からも次のようなことが見られる。

- 1) 謙讓語が丁寧語へ近づいていること。
- 2) 親愛語には美化語の性質を有することもある。

「頂戴する」はレベルの高い謙讓語として使われるが、神仏や帝に関する例(1)(2)を除き、家族間、客観描写、上下関係、緊急事態などの場面にも使われる。これらの用例は敬意の顧慮の対象が行為の向かう相手にあることから見れば謙讓語であるが、丁寧語に近付いていると言えよう。「頂戴」「～て頂戴」は家族間や親友関係や師弟間のような学校関係での会話にはよく使われる。これは親愛語が比較的使いやすい。外にビジネス関係などの場面にも用いられる。これらの例は聞き手である客を意識的にしながら、親愛語として使われると同時に、美化語の働きも見られる。「4.3」で触れたように親愛語には美化語を合せ持っている性質があるという。

〔付記〕本論文を執筆に当たって、ご助言やご協力をいただきました立教大学門奈研究室の小峰満子さんをはじめ、新潟放送フリーアナウサーの南雲和子さん、日本株式新聞社の記者でいらっしゃる田中知徳さんに感謝の意を表する。

¹⁵ 国語研究所（1990：p 96）によるもの。

用例出典

- 1 駆け抜ける光芒：それぞれの明治：それぞれ
- 2 生と死のはざまで・ある生徒兵の青春：青春
- 3 うちの子、バイリンガルになーれ！：うち
- 4 それでも僕は笑っていたい：僕は
- 5 君はみたか神、仏、幽霊を：幽霊
- 6 五円玉一つのがむしゃら人生：五円、 7 雪：雪
- 8 赤ちゃんの言いたいことがわかる本：本、 9 地唄：地
- 10 未熟な外科医の研修旅行：外科医、 11 拾戒：拾
- 12 ことば美人は一生の得：美人、 13 脱出行：脱
- 14 女の半生を生きた男：女、 15 愛の絆：愛
- 16 ガンなんかこわくない：ガン、 17 愛擁：擁
- 18 七人の敵が居た：七人、 19 晴れた日に：晴
- 20 バトンリレーの人生：人生、 21 茶々と家康：家康
- 22 おいなりさん：いなり、 23 宵夢綺譚：宵
- 24 みんなの声が聞こえる：声、 25 ペロ幻想：幻想
- 26 遥かなる天の蒼：天、 27 ゆれる思い：思い
- 28 赤い港のエナジー：赤、 29 人間の壁：人間
- 30 石中先生行状記：石中、 31 紫の履歴書：紫
- 32 われらが風狂の師：風狂、 33 自分に惚れろ：自分
- 34 漱石の猫と遊ぼう：漱石、 35 ふるさと残照：残照
- 36 いのちの授業：授業、 37 君、私の頭上で輝けり：君
- 38 超人の孤独と愛：超人

参考文献

- 奥山益朗、『敬語用法辞典』、東京堂出版、1976
- 、『状況分類別敬語用法辞典』、東京堂出版、1999
- 池上 彰、『日本語の「大疑問」』講談社新書、2000
- 小崎誠二、『気持ち伝わる敬語の使い方』、桐原書店、2007
- 遠藤織枝、『女性のことば・職場編』「職場の敬語のいま」、ひ

つじ書房、1999、83-111

大石初太郎、「待遇語の体系」（『論集・日本語研究9 敬語』蒲

谷宏・川口義一・坂本恵、『敬語表現』大修館書店、1998

北原保雄編 1978 に再録）、1976、129-142

国立国語研究所、『敬語教育の基本問題（上）』、1990、

国立国語研究所、『敬語教育の基本問題（下）』。1992

『語源由来事典』

<http://gogen-allguide.com/i/itadakimasu.html>

小長谷有紀「『いただきます』の意味」『科学』岩波書店、第

75 卷 1 号（通巻 869 号）、2005 年 1 月号

蔡瓊芳、『「お／ご」を中心とする敬語の研究』、大新書局、1996

——、「『いたす』をめぐって」（『政大日本研究』第三号 2006、

139-172

姫野昌子、『言語文化研究Ⅲ—現代日本語の様相』、放送大学教

育振興会、2005

文化審議会答申、『敬語の指針』、2007

松下大三郎、「敬語の体系」1923、（『論集・日本語研究9 敬語』

北原保雄編 1978 に再録） p29-36

——『増補校訂標準日本口語法』、1930、復刻版、勉誠社、

1977

宮地 裕「現代敬語の一考察」（『国語学』72、国語学会）1968

〔参考辞書〕

1 『国語大辞典「言泉」』（第一版）、小学館、1986 年

2 『広辞苑』（第 5 版）、岩波書店、1998 年

3 『大辞林』（第一版）、三省堂、1988 年

4 『大辞泉』（第一版〈増補・新装版〉）、小学館、1998 年

5 『日本国語大辞典』（第一版）、小学館、1976 年

6 『日本語大辞典』（第二版）、講談社、1995 年

7 『明鏡国語辞典』、大修館書店、2002 年